

日ラグ協発第 14-784 号

平成 27 年 3 月 18 日

関東ラグビーフットボール協会

会 長 貴島 健治 様

関西ラグビーフットボール協会

会 長 坂田 好弘 様

九州ラグビーフットボール協会

会 長 徳田 昇 様

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 矢部 達三



「競技規則第 10 条、および、第 19 条」についてのルーリング 2015-2(競技規則の確認)  
(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

以下のリンクにあるビデオクリップは、キックオフのボールを受け取ろうとするプレーヤーを空中でサポートし、その後、前へ投げ降ろすチームの動きを映し出している。これは、先週のラスベガスセブンズで初めて試された新しいプレーである。この戦術を真似るチームは、まだ他に出ていない。

<https://www.youtube.com/watch?v=J9mZvrwcMho&feature=youtu.be>

競技規則 19.10 (g)は、ラインアウトにおいてボールが獲得された後「プレーヤーを地上におろす」ことについて触れている；「跳び上がる味方プレーヤーをサポートするプレーヤーは、どちらかの側のプレーヤーがボールを獲得したらすぐに、そのプレーヤーをおろさなくてはならない。」一方で、キックオフ、または、一般のプレーにおけるキック後にプレーヤーをおろすことについて触れた競技規則はない。

プレーヤーを相手側の方に前へ投げ降ろす行為は、競技規則第 10 条(不正なプレー)でも取り扱われていない。

このような動きに関する競技規則の中での唯一の言及は、3 ページの序文である。

ラグビーフットボール競技は、身体接触を伴うスポーツである。身体接触を伴うスポーツには本来危険が伴う。プレーヤーは、競技規則を遵守し、自分自身と他のプレーヤーの安全に留意することが特に重要である。

ラグビーフットボールの指導者は、プレーヤーが競技規則を遵守し安全にプレーできるよう責任を持って育成しなければならない。

そこで、上記リンクのビデオクリップにある動きが危険なプレーとなるかどうか、指定メンバーの明確化を求めたい。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

指定メンバーは、この質問、および、動きについて検討を行い、キックオフのボールを受け取ろうとするプレーヤーを空中でサポートし、その後、前へ投げ降ろす動きは、不正なプレーとなる、とみなす。

以上